

## 第4回高砂市文化振興審議会議事録

出席者 田端会長、北野副会長、三井委員、岩見委員、渡邊委員、唐津委員、高橋委員、前田委員、森本委員、松本委員  
事務局 副市長  
(健康文化部) 橋本部長、猪子室長、東野課長、福原主幹、前川係長  
(教育推進室) 梶原室長、泉田課長 (学校教育室) 玉野室長

### 1. 開会

【司会】 定刻になりましたので、ただ今より第4回高砂市文化振興審議会を開催いたします。

開催に先立ちまして、当審議会の公開についてですが、「高砂市文化振興審議会の運営に関する規程」に基づき、公開とさせていただいておりますが、本日傍聴希望者はおられません。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

なお、お手元にお配りしている資料の次第により進行しますので、よろしくお願ひします。

※ 配布資料の確認

### 2. あいさつ

【司会】 では、開催にあたりまして、副市長よりご挨拶申し上げます。

(副市長あいさつ) (退席)

【司会】 引き続き、会長よりご挨拶お願いいたします。

(会長あいさつ)

【司会】 本日の会議は、出席10名全員出席により、審議会規則第5条第2項の規定により、過半数が出席されているため会議が成立していることを報告いたします。

では、今後の議事進行は、会長にお願いいたします。

### 3. 議題

#### 高砂市文化振興基本方針（素案）について

【議長】 次第に従いまして進めさせていただきます。まず議題ですが、高砂市文化振興基本方針についてでございます。みなさまからの意見を踏まえ、まとめておりますので、事務局の方から説明をお願いします。

【事務局】 (説明)

【議長】 ありがとうございました。多岐に渡る議論をしないといけないので、整理しながら進めていきたいと思っております。まず章立てを見てください。第1章に「基本方針策定にあたって」という経過、背景のところですか。第2章が基本理念で、これは条例の解釈が書かれています。第3章が現状と課題。第4章以降がこの方針の紐となる部分でございますが、基本目標を定め、それについて各主体がどのような役割を果たしていくのが第4章から第6章です。こういう章立てになっています。まずこの章立てについてご意見いただけないでしょうか。

【委員】 基本施策3の「文化を担う人材育成、活用」の中に「子どもの学習機会の充実」が包含されるのではないですか？育成の手段として「子どもの学習機会の充実」が入ると思っておりますが。別にする必要はないと思っております。

【委員】 基本施策3の「人材の育成」で、文化継承、技術を伝えるということは、子どもに限らないのでしょうか？

【議長】 基本施策3の「文化を担う人材の育成」に、子どもも今後の育成すべき人材であると。だからこの中に基本施策4の「子どもの学習機会」が含まれてくるのではないかと。わざわざ分ける必要がないのではないかとということです。

【委員】 それがベースになるということです。人材の育成そのものに、子どもの学習がなかったら、人材の育成はできないじゃないですか。「子どもの学習機会の充実」は手段じゃないですか。別個のものではないと私は思うのです。「文化を担う人材の育成」というのは全てですから。その中に子どももあり、大人もあり、資材もあるという形だと思います。

【議長】 「学習機会の充実」というのは、かなり施策レベルに近いのではないかと、こういうふうなご意見だと思います。このあたりまたこの議論に戻るときに整理させていただきたいと思っております。

【委員】 このあたり整理した方がすっきりするのではないか。基本方針だから長く書くものではない。

【議長】 ありがとうございます。あと何かございますか。章立ての方はよろしいですか。第1章は特に議論がなくて最後2ページの5番の目指す姿が大事なのですが、これを本来最初に立てて、これに基づいて目標を立てるという筋なので、本来これを最初に議論しないといけないのですが、このあたりにつきましてどうでしょうか。提案として事務局で5つ作っていただいたのですが、みなさまのご意見もそれぞれバラバラでして、集約ができなかったと。これは挙手して決めるものでもございませんので、皆様で議論して、あるいはあくまでも例であってこれを組み合わせて、もっとこういうのがいいのではないかとか、こういう言葉がいいのではないかとかあれば出していただければと思うのですが。

【委員】 6ページの課題のところは上手くできていると思います。必要なことも全部書いてあります。上手くまとめていると思っています。

【議長】 ありがとうございます。2ページ5番の目指す姿で何かご意見いただけないでしょうか。それぞれこの中に出てくる用語を散りばめているわけですが、いかがでしょうか。もちろんこれだけでなく、入れ替えたらもっといいものになるとかあればご意見いただきたいのですが。

【委員】 私は1番がいいと思います。終わりの語呂が悪いですけど、文化を大切に、まちを愛するというのはいいなと思います。

【委員】 意見書に出させていただいたのですが、1～5の中では1番が良いと思いましたが、1番を読んだとき何となく違和感がありました。「ふるさとを愛するまち高砂」というのが、言われたように語呂が悪くて、「文化を大切にし、ふるさとを愛する人が集うまち高砂」だと感じがいいかなと思いました。

【委員】 私も同感で、「ふるさとを愛するまち高砂」だと、高砂がふるさとを愛するよう感じたので、今言われたように「人を育てるまち」とか「人が集う高砂」とかそういう言葉を1文字か2文字入れた方がいいかなと思います。私は5番がいいと思って出させていただきました。私は全体から見て、ガイドクラブということで高砂のまちを歩いているので、その目線で話をさせていただきます。高砂を訪れるお客さんや案内するガイド、それらが高砂のまちと言う舞台に立って、まちの中にある建物、街並みとかを大道具、小道具に見立てて、

いつも歩いているので、そういった舞台のあるまち。その中でみなさんが、高砂を訪ねて来た人達が、役者のように考えたり、話したりする、そういう舞台を想像しているわけです。

【議長】 この本などそうですね。舞台道具としてイメージされているということですね。

【委員】 具体的には古民家の保存、街並みの維持、音楽が聞こえるまち、子どもやスポーツマンがかけまわるまちとか、そういったところを舞台にみたくて、活気のあるまち。全てが舞台の大道具、小道具として町を表現できたらいいなと思います。

【委員】 昔、市民祭りといって、おみこしを出したりしていました。古民家の花井邸や万灯祭などもやっていますが、もっと人が集まる何かをしないと、高砂の町自体を知らない人が多いので、年に1回でも思い切ってそういうことしたら、みんなわかってきて、ゆっくり花井邸を見に行こうかとかなるけども、それが今ないでしょ。古民家の花井邸が出来ても、新聞に載るだけでみんな知らない。そういうきっかけをつくらないといけないなと思うのです。

【議長】 人が集まるということに注目されて、集うというところに力を入れていくというのに近い意見であり、もう一方はむしろ舞台のほうが大事であるという意見です。他にいかがでしょうか。

【委員】 「世界に発信する文化都市高砂」、「グローバルに文化を発信し続けるまち高砂」を提案しました。目指す姿について意見を求められている中で、1番から5番はベーシックで落ち着きはいいですけど、目指すという観点からすると、私としては物足りない思いがあって、もう少しチャレンジというか、今の時代、飛行機で1日あれば、あるいは12時間あればどこにでも行けます。昔の日本の国が世界で、その中の高砂市という発想で、物事を考えていく、そういうステージでの文化育成という考え方が少しでも入らないかなという思いで提案しました。

【議長】 世界への発信ということですね。

【委員】 世界を視野に入れてということですね。

【議長】 ありがとうございます。今までのご意見ですと、人が集うというところに注目したらどうか、それから高砂の文化の舞台というものに、要するに文化

資産などを舞台として考える、今後そうしたものを基盤にして世界に発信していくという将来の姿を含めれるかというご意見でした。他はいかがですか。

【委員】 私は一番最初は1番をあげていました。でも色々考えると文化を大切に  
するだけでは、守りに入ってしまっていると思ひまして、今回は文化を誇れる  
ように、いろんなどころへ発信していった方がいいのではないかと方向転換を  
したのですね。でも今お話を伺っていたら、一番最初に言っていた1番も、や  
はり捨てがたいなという思いですけども。でもやはり4番をしながら、ふるさ  
とを愛して、私達が愛しやまない心がわきあがらないと、文化を育てていく心  
にはなっていないと思うのですね。それで4番にしたのです。でもまだ心は  
揺れ動いています。

【議長】 ありがとうございます。他にまだご意見いただいてない方でぜひ。

【委員】 私は1番で出しました。その次が5番です。やはり基本的には今言われ  
ましたように、愛することができるような高砂ということで、その結果とし  
て誇れたらいいなと思います。

【議長】 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。ご意見いただいてない  
方で、これはなるべく全員で、一番大事なところですので。愛することができる  
ような地域であるということを出して欲しいとか、まさに先ほどいった誇り  
を持つことだということになりますので。どうぞいかがでしょうか。

【委員】 私も1番で、素直に根本的なところでふるさとに対してどういう思いか  
というのはあまり固持しすぎないで書ければいいなと思うのですけども、あま  
り大きなものを目指しすぎないで、やはり市の力や、現実を見据えた市民の数  
や、誇れるものとか、発信していく具体性を考えると、少し苦しいなど。もっ  
と足元から高砂の良さというものを見直していけばいいのかなということで、  
1番の言葉自体に愛情を持てるなどと思って私は1番にいたしました。

【議長】 ありがとうございます。どうぞ。

【委員】 私は1番と3番をあげました。1番で愛するまち高砂というのは私もも  
のすごくイメージがいいのですけども、人を大切にすることを実践どの  
ように、どう取り組むのかということが一番難問だと思うのです。高砂の文化  
を誇る市民のまち、これは実践の中で培っていくことだと思いますし、そうす  
ると3番の方が素朴でいいのではないかと思います。

【議長】 今の現実を踏まえ、現場での動きを踏まえると3番にしよう。

【委員】 1番の文化を大切にす、これはみなさん一緒だと思います。それをどのように膨らませてどう訴えるかというとなしくなるので3番の方がまだいいのではないかと思います。

【委員】 悪いですけど反論させてもらいます。高砂の文化を誇ってない人がいるかもしれない。これだと。全員が高砂の文化を誇っていたらこれでいいけど、誇ってない人もいるかもしれない。それで1番であればみんなが大切に思っているからみんな一緒。だからまたこれから高砂を良くしようという人の育てるまちというのが無難だと思います。

【委員】 これは現在の姿でなく、目指す姿だから。今思っていない人がいても、そういうまちにしていこうということですからね。

【委員】 今これを出さないといけないから、それだったら今現在に適合した文章を作っておいた方が無難だから、私はそういう意見ですけどね。

【議長】 何かありましたら。

【委員】 私は市民全員にということ、この素晴らしい文化を大切にしていくには1番がいいなと思ったのですが、意見としては、素晴らしい文化を継承、発展させるのも大事なことで、1番と5番を合作して、「文化の継承・発展とふるさとを愛するまち高砂」。市民としてまず今まで大切に、先達が培ってきた文化を、発展させなければいけない、こういう思いから2つ合わせたらどうかというふうに思いました。

【委員】 それもいいですね。

【議長】 5つとも捨てがたいところがあって、意見が分かれるということはなかなかみなさんそれぞれ文化に思いをお持ちで、1つを選ばないといけないところと、ただみなさまのお話を聞いていますと、愛するといいますか、ふるさとを愛するということがやはり重要だろうということが1点、それから先ほどの継承、発展という部分、これはもともと基本理念のところにもあったわけでございますので、その部分もどうやって入れていくのかということ、それから3番目が人の扱いですね、人というのがこの基本方針そのものが人に重点を置いているところでございますので、そうしたところをどういうふうに入れるか。

【委員】 言葉が1番は「大切」になっていて、5番はその言葉が「継承」になっているだけで、思いは一緒です。いずれも一緒の思いです。

【議長】 一応一通り全員からご意見いただいたので、これからいろいろみなさまからご意見を出していただいたらどうでしょうか。

【委員】 これを文化振興基本方針として作る中で、「文化を大切にし、ふるさとを愛するまち高砂」というのは、無難だし、全然反対ではないのですが、これを作るところで、「世界」などは私の意見なので別に入れていただかなくていいのですが、もう少しこの基本方針を作る意味においてですね、一歩チャレンジするようなものが目指す姿として出せないかなという希望があります。意見としまして。

【議長】 先ほどの発展というところに戻って、発展といいますか、文化を発展させていく、一歩先に進めるというのがないのではないかと。

【委員】 いや、その発展がいいのかどうかもわからないのですが、文化振興基本方針を作る中で、「文化を大切にし、ふるさとを愛するまち高砂」で何の文句も付けようがないのです。いいと思うのです。けれども、それでいいのかなと。目指す姿ですから、この場で考えるのにもう一歩踏み込んだものがあるのもいいのではないかと。

【委員】 今おっしゃっているのは、これは現在の基本方針だろうと。もう一歩これから出ないといけないだろうということですね。

【委員】 だから「世界」を入れて欲しいということではないのです。

【委員】 それでは、この「文化を大切にし、ふるさとを愛する人の集うまち高砂」で切ってしまうのではなしに、「文化を大切にし、ふるさとを愛し、」その後文化の継承なら継承、発展でも構わない、そういう言葉を入れたらいいでしょう。次につながる未来を入れないといけないということですね。

【委員】 あまり長くなってもいけないでしょうけど。

【委員】 何かを切って未来をいれないといけないというわけでしょ。

【委員】 何かこれだと。

【委員】 これだと現在のことだけです。もう一歩出すようにということです  
ね。

【委員】 意見をまとめた、新しいものが作れたら。

【議長】 振興策だからということですね。

【委員】 そうですね。願わくば。これで反対ではないです。

【議長】 3番がある種現状のところ。

【委員】 それだと前進がないから。次を目指そう思うと。

【委員】 でも目指す姿というのは、今住んでいる高砂市民が高砂を誇れる心を持たないといけないと思うので、これも大事なことではあると思います。だから1番に付け加え、付け加えていくと、何かせっかくいいものが、ちょっと意味が変になってしまうかなと思います。

【委員】 それでは、「ふるさとを愛する」をやめて、「文化を大切にし、継承、発展する」という言葉を入れたらどうですか。「文化を大切にし、何か語呂のいい言葉を入れて、継承、発展する高砂のまち」というふうにすれば。そうするとすべて入ってくるから。

【議長】 そうした言葉で。もうひとつ言われた、ふるさとを愛するということ、かなりみなさんひとつ思いがあったと思うのです。つまり、先ほどおっしゃったように委員も要するにふるさとを愛するからこそ、文化を継承、発展させていかないと。いけないと。

【委員】 でもふるさとを入れると長くなってしまいます。

【議長】 そこをどうするかですね。

【委員】 高砂はだめだなという言葉も結構耳にするのです。がんばってらっしゃる方の姿も見ますが。何か「ふるさとを愛する」という言葉の中に、発展とか継承も全部含まれているような気がするのです。含めすぎかも分かりませんが。愛していれば発展を期待するでしょうし、未来に向けても努力するでしょうし、含めすぎかもわかりません。継承とか何か言葉を入れて説明しないと



わからないかもしれないとは思いますが。

【委員】 きりがないので、具体的な言葉を議長言ってください。時間ばかりかかるので。

【委員】 観光協会が年4回作っている「観詰」ですが、高砂ロケの関係、次に行きますと、花井邸とか今やっているアートタウンとか載っていますが、ショップが新しく入ってきてくれているのです。今委員がおっしゃった高砂はだめだという話と、ここでやっている人達は、高砂とは何て素晴らしいのだと、私の周りにはいる人は、素晴らしいのになぜ放っているのだというところで、それを活かしていかないといけないと、集まって来ている人達がどんどん増えているのです。それも他のまちから。現実にオープンしてきだしているのです。問題はこれがオープンして3か月でやめた、半年でやめたでは意味がない訳で、いかにこういう人達が住み着いてくれるような風土を作っていくかということについて、努力しないとイケない。その中でロケ地もこれだけあるのですよと、今度映画を上映します。何が言いたいのかというと委員がおっしゃったところの部分の反対の勢力も結構今出てきてくれている、それは寂びれたここにすごい魅力を感じると、特に若い女性はそういうこと言ってくれているのです。

【委員】 どのあたりから入ってきてくださるのですか。

【委員】 明石、神戸、兵庫県でいくと篠山とか龍野とか、まちづくりをやっているでしょ。それと同じように高砂があり、ところが他は進んでいますけど、高砂はまだ全然何も進んでいないと、そこが魅力的だと、これからいろんな形でやっていけば、こういう新しいものができていくと、そういう感覚ですね。

【委員】 そういう動きの宣伝が伝わってきてないのですね。

【委員】 いや、しているのですが、そういう現状を認識してもらったときに、私は非常に可能性がある、可能性があるのに、可能性がないとしてしまったら、その世界で終わってしまうので。

【委員】 わりと地元の間が地元を下げてしまうような発言をする方も結構いらっしやる。外からの人の方が高砂の魅力を発見されています。

【委員】 私の周りにはそういう感じになっています。

【委員】 先ほど委員が、他から高砂に魅力を感じて来てくれているということをおっしゃっていましたが、私は1番に「人が集う」という言葉を加えましたが、人が集うというのは、ふるさとを愛する人つまり市民が集うという意味と、市民だけでなく、他からこの高砂に来たくなるというようなイメージも込めて、「人が集う」という、他からもたくさん高砂のいいところを見に来てくれたり、住みたいなと思うそんなまちになったらなという意味を込めて、人が集うというのを入れさせていただきました。

【委員】 「ふるさと、文化を大切に発展するまち高砂」、何か標語のような形になったのですけれど、こういうのは不適當でしょうか。

【委員】 先ほどから、継承とか誇りとか色々言われていましたので、「高砂の文化を誇り、継承、発展するまち高砂」、これなら先ほどのご要望全部入ったと思います。私は1番でいいと思っていましたが、先ほどからおっしゃっているもうひとつジャンプしないといけないなら、継承、発展すると入れたらいいと思います。

【委員】 どちら向けに目指す姿を言うのかで、市民向けにいうと「ふるさと」なのですが、他の方も集まってくる、高砂に魅力を感じるとなると、あえてふるさとにこだわる必要はないのではないかと思います。

【議長】 今意見を聞いていて、例えば愛する高砂の文化というのは。

【委員】 今現在の高砂を舞台にしたような。

【委員】 ですから明石の人が高砂を見て、高砂に非常に関心を抱くというようなメールやご意見を实际いただくわけです。だから市民だけでなく、他市の人が高砂を愛している人も結構いらっしゃるのです。

【議長】 例えば、愛する高砂の文化を発展させる舞台とか、最後高砂で切るのではなく、舞台のようなイメージにすると、委員がおっしゃったように、他からも来てくれて、高砂の文化に魅力を感じて来てくれて、そこを発展させていくという考え方もひとつですね。そうすると人も入ってきますので。

【委員】 基本は市民が、高砂を好きだとか、愛するという、そういう心情や気持ちを、持つこと、持てるようにすることが基本だと思うのです。それを抜いてしまっただけで他市がどうというのは違うのではないかと。反対しているのとは違いますが、基本はそこに置いて、その上に立ってどうなのかということであってね。

【議長】 ふるさとという言葉が入ることによって、例えば、「愛するふるさとの文化を発展させる人と舞台の高砂」あるいは「愛する高砂の文化を発展させる人と舞台のふるさと」にするとか。

【委員】 段々難しくなって、色々入れるとどっちがどうだったかみたいなの、どっちが先だったか。

【議長】 時間が限られていまして、そのあたりまだ意見が錯綜していますので、私と事務局でまとめさせていただいて、意見を入れた形で、また審議会としてみなさまに再度お伺いをたてます。時間が限られていますので。

【委員】 みんな別に言葉にこだわってないのではないですか。そんなこだわってないと思うのですけどね。

【事務局】 6月にパブリックコメントを予定していますので、ここである程度目指す姿を決めないと、パブリックコメントの時期をまた変更しないといけなくなります。

【議長】 先ほど委員がおっしゃったように、大きなこだわりは多分ないということなので、字句の問題ですね。入れていただきたい言葉として、要するにふるさとであるとか、人であるとか、発展であるとかですね。

【委員】 1番のところへ、人が集うを入れてもらったら、それでいいのではないですか。

【委員】 私は基本方針策定にあたっての目指す姿ですから、平成34年度と思っているわけです。10年後の目指す姿を書いていただきたい。市の総合計画でも何でも、計画なのに今のことが素案としてあったりして、それではどうなのかという経験があるのですね。ですから一任しますがあくまでも10年後の目指す姿で納得できるものでお願いします。

【委員】 それは難しいですよ。県のビジョンでも現在でもって審議しますよ。

【委員】 一任します。

【議長】 一応みなさんのご意見で、まず1番を基盤にした文書にします。それはご了解ください。その上で先ほど出てきました、発展とか、そういう言葉を加

える形で調整いたします。これについては早急に決めて、みなさまにお配りします。

【委員】 でも発展とかいろいろな言葉を付け加えていくと、だんだんおかしくなってきたと思うのです。やはり1番でもシンプルではないです。でも、「愛する人が集う」を入れることによって、結構良くなってきたのですね。1番と2番は現状維持ですよ。3番から5番は未来を目指しているのですが、みんなの心はこれにあって、1番で繋いでいく。それでもいいのではないかなと思います。全部寄せ集めるとおかしい言葉になりつつあると思ったので。

【委員】 今から10年後のキーワードで、「発展」という言葉は時代になじまないと思います。時代になじむ言葉で。

【委員】 いや、それは分かりませんよ。言葉はそう変わるものではないですよ。

【委員】 高砂市に発展というのは、これから成熟していく中では…。

【委員】 発展というのはいつの時代でもあります。発展の仕方がどうあるかの違いだけで。

【委員】 私は1番がいいと思います。高砂にはたくさん素晴らしい文化があるにもかかわらず、活かしてないのです。だから、継承、発展ということで、今後力を入れていこうという意気込み、目指す方向が出るのではないですか。

【議長】 多分委員も「活かす」というところに重点を置いていただきたいということだと思います。これで調整いたします。元に戻りまして、第4章で先ほど言った基本方針を実現可能にする目標として3つ、これはみなさんに議論いただいたものです。もともとの議論では「づくり」という言葉を入れていたのですが、政策目標みたいなので、以前の議論で、むしろこれは市民が作るものだから、政策でなくて、目指す姿なのだとということで、「づくり」を外したのですが、「づくり」を入れた方がいいのではないかというご意見もあったということですが。

【委員】 その意見は私です。基本目標として、例えば、舞台、とかで切ることで自体がちょっと何か違和感があります。文章の中でも、舞台のところ、舞台(場)と書いていましたが、舞台で切ってしまうと装置としての舞台(ハード)をつくるのみという感じがし、「舞台づくり」と「づくり」を入れると舞台(場)もつくるが舞台をつくるための仕掛けというようなソフトも含むと思うので、

「づくり」か何か入れた方がしっくりするようには思いました。

【委員】 基本目標を見ますと、最初これいいなと思っていましたが、これを読み返すと、文化を育てる舞台、文化を愛するひと、文化を創造する魅力、何かバラバラにすごく感じるのです。だからもう少し言葉として、この3つが統一感があって、それぞれにきちっとふまえているなということが分かるような言葉に何とかならないでしょうか。

【議長】 考え方としては、目標に向かって施策をうっていくというイメージがあったものですから、先ほど言ったように「づくり」という言葉を入れて。

【委員】 一番最初みなさんで話しているときは、文化を育てる何とかという感じで、それが前面に入って、あとに、人などを付けていったと思うのですね。今度それを育てる、創造する、愛するという言葉を入れることで、反対にバラバラになった気がするのです。

【委員】 順番が間違っている。「文化を愛するひと」が最初にあって、「ひと」、「舞台」、「魅力」の順です。

【議長】 順番の問題もありますね。委員がおっしゃっているのは、順番ではなくて、実はほかのことなのです。

【委員】 順番のことは確かにそうですね。それから何か基本目標の言葉自体が、3つ言ったときに何かバラバラに思ったのです。

【委員】 順番がきちんとできていたら、その通り分かるわけです。

【議長】 もともとの議論の中でも確か、舞台をつくるのは人で、魅力をつくるのも人だとありました。順番の問題ももしかしたらあるかもしれませんがね。バラバラだなというイメージも、もともとそういったものを分けているところがあって、その分が消えていますので、バラバラに見えるところがあるだろう。

【委員】 だから、人があって、舞台があって、魅力がでてきたら、バラバラではない。一環しているわけです。それも一任して整理してもらいましょう。

【議長】 まず順番の問題もあると思います。もともとの議論では、確か舞台をつくるのは人だし、魅力をつくるのも人だということを考えれば、一番上に人がくるのが最初だというひとつの意見だと思います。他の方で基本目標について

何かご意見ありませんか。委員は体言止めがちょっと目標らしくないのではという意見ですが。

【委員】 舞台というのは装置というような感じもして、「づくり」という方が、場や舞台、それから施策も全部含めたもっと推進していくというイメージが私の中ではあります。

【議長】 目標という書き方をしているだけに、むしろ「舞台」では目標ではないだろうと。ビジョンなのですね、もともと。

【委員】 私はこの方がかえってインパクトが強いのではないかなと、体言止めのほうがいいと思います。順番も私も人が先かなと思うのですが、むしろ9ページの円のある図のイメージだったら分かるような気がするので、順番は、今言ったように前後重なっているわけですね、舞台と人と魅力というのは。別々にやるものでは違いますからね。舞台をつくってから、人をつくって、魅力をつくるわけではないので。平行なり、重複しながらやっていく部分だと思うので。あえて順番がこの順でやるのかどうかという問題を、そういうふうに意識しなければこの3つで舞台、ひと、魅力と切っているのは結構いいなと私は思いました。

【委員】 それはおかしい。やはり、まず人ですよ。

【議長】 順番ではなくて、この3つはいいだろうということで、順番は、ひと、舞台、魅力でいいと思うのですが、ひとつ気になりますのが、委員がおっしゃっていた目標という書き方をしながら、目標であったら、例えば何々を目指すとかいうゴールですから、舞台を目指すというのはちょっとおかしい、だから「づくり」であろうというのも意味としては分かる。もしかしたらこの基本目標という書き方自身がもしかしたら。みなさんのご意見は多分そのあたりが。確か「づくり」だと政策目標のようで良くないと。ところがこの目標という言葉が残ってしまっているのです、この言葉自身がもしかしたら違うのかもしれないですね。

【委員】 謡曲が出てくるからではないですか。

【委員】 なぜこの順番かは、謡曲「高砂」を復活して、何とかそれをものすごく前に出そうとするからこうなった。だけど普通の常識でいくと順番は、人があって、舞台があって、後に魅力があるということですから、始めの基本目標についてはこの文言でもいいですが、順番にする場合には、やはり普通の順番に

していないとおかしいと思います。上の基本目標にはきちんと委員の言いたいことが書いてありますから。

【議長】 目標という書き方に少し問題があるのかなという気がしたのですが。つまり今までのご意見では先ほど言ったとおり「づくり」では政策目標っぽいと、だから「づくり」をはずしましょうと外した。だけど、基本目標という言葉だけが残ってしまっていて、本来これがひとつの目指すビジョンなのですね、目標というのが。だからビジョンというカタカナの用語は使いたくないので、こういう言葉になっているのですが、何かいい言葉ないでしょうか。

【委員】 だけどやはり基本方針にしろ何にしろ、まず人ありきですから。

【議長】 それは多分そうだと思うのですが、前もこの議論をしたのですが、要するにこの体系図が行政図なのです。条例があつて、基本理念があつて、行政が分かりやすい図なのです。

【委員】 やはり基本方針として市民に対して発信する場合は、あくまでも市民が主体ですから、その目的というよりも。文化を振興するにしても文化そのものが主人公ではない、市民が主人公だからね。

【議長】 だからこそ政策目標みたいなのはやめましょうという話になったと思いますので、ですからその順番については人を中心に書き換えようと思いますが、先ほど言ったのが、そういいながら目標という言葉が残っている。それで委員が違和感を感じてられるのが、この目標という言葉に違和感があるのかなという気がしたので。

【委員】 それともうひとつは、文化を創造する魅力づくりだと分かるのですが、文化を創造する魅力と切られたときに、この魅力という言葉が、文化を創造する資源とか、日本語としてちょっと、委員も順番の問題にこだわられるのは、「づくり」はあってもなくてもどちらでもいいのかなと聞いていましたが、だから目標は目標であるのですから、ひとづくり、舞台づくり、魅力づくりだと日本語として分かるのですが、魅力で切ると、何か、創造する魅力という日本語はあるのかなというような感じがします。

【委員】 「魅力づくり」と「想像する魅力」とは全然違いますね。創造することに喜びを感じる、魅力を感じるということであつて、片方は創造したことに対してのことですから、することについての経過とは違う。これは後者を書いてある。

【議長】 他にいかがでしょうか。

【委員】 文化を育てる舞台、文化を愛するひと、そこで止まってしまっているのが目標としていけるのか、特に3番目の文化を創造する魅力、これは言葉としておかしいのでは、やはり後ろに何か付ける、あるいは間に何かを挟むか、今ちょっと出てこないですが。

【議長】 それでは、みなさん方向的には「づくり」という言葉を入れさせていただいて、ただ何度も言うとおりの政策目標ではなくて、あくまでも市民が共有する目標であるということは確認させていただいた上で、「づくり」という言葉を入れます。基本目標という言葉も、例えば、市民が共有する基本となる目標とか、市民が共有する目標とか、そういうふうな言葉にするのがいいかもしれないですね。

【委員】 この魅力は、創造する魅力と違うのですね？文化の魅力なのですね。

【議長】 そうなのです。だからその違いがあるから、「づくり」を入れた方がいいだろうということで、そういう形にするということです。前にみなさんの議論の中では「づくり」だと政策目標っぽい。だからいやだということがあったので切ったのですが、上のタイトルをもう少し変えて、むしろ市民が共有する目標だということにした方がいいのではないかとということです。

【委員】 切っているほうがかえってインパクトがあって、説明文にはきちんと「整備します」とかありますから。

【委員】 そうですね。これは言葉を切りすぎていますね。

【委員】 私は意見書に書いたように、文化を育てるのは誰かということ、人ですよ。文化を愛するのは誰かということ、人ですよこれも。文化を創造するのも人ですよ、ということで人が入ったらおさまりがいいのにと書いたのですが、これがいいとは言いませんが、何かおさまりがいい言葉にして欲しいと思いました。響きがバラバラだなと。「人」と入れなくてもいいですが、何か後ろに「づくり」をつけるとか、言われたようなふうに変えて欲しいと思います。

【委員】 基本目標1の文化を育てる舞台の「舞台」というのは、よく今使われるのは「環境」ですね。地域の環境、何々を育てる環境とか。舞台そのものは地盤を固めてきっちり育てる基礎ですけども、環境づくりと言う方の「環境」を



使うと弱くなるのか、「舞台」というのが固すぎる気がします。

【議長】 最初「環境」だったのですね。「環境」だといわゆる自然環境のようなイメージがあるというご意見があり、いわゆる周囲の環境、とりまく環境なのですが、もうひとつが「場」ですね。そういった発表する場であったり、公開する場であったりとか、この2つをイメージさせて「舞台」という言葉にしていますので、何かいい言葉があるといいのですが、もしあれば。

【委員】 分かりました。

【議長】 市内を舞台にみたてるのも、ある種環境であり、場であり、というイメージをおっしゃったと思うので、その辺りのイメージを持っているということ。説明の中で括弧書きでしか書いてないですが、詳細が必要であれば、説明を入れるか何かして、委員がおっしゃった疑問には答えられるようにしたいと思います。

【委員】 お任せしましょう。

【議長】 あと何かよろしいですか。基本目標につきましては、先ほど言いましたようにタイトルをまず変えます。市民が共有すべき目標とか。次に第5章に行きます。文化振興の担い手とその役割、ということで、これは市民、団体、学校、企業、行政と5つの分野に分けております。図の方を見ていただいたら分かりますように、行政を少し外しております。協働の枠組みから外したわけではないのですが、要は前々からみなさま言っておられるように、市民が主体的に動くということになりますので、行政の方は何をするのかということ、ひとつは先ほど委員の言葉を使いますと、環境づくりなのです。私たちの言葉でいうならば、みなさんの活動を可能にするように、活動がスムーズに動くようにしていくことがひとつあります。それともうひとつが基本的なベーシックな部分ですけども、文化の公共財の提供ですね。公共財の提供というと難しいのでここでは公共的サービスを担うという書き方をしていますが、そういうふうな役割が実は市の方です。だからちょっと1歩後ろに市の方を下げ、むしろ中心となるのが市民なり、学校であり、各種団体であり、企業といった公共以外の分野の人が中心となってがんばっていただいて、市はそれをバックアップする、あるいはそれを可能ならしめる。もちろん必要な公共財を提供していく。こうゆうふうなイメージがこの図なのですが、このあたりご意見を賜りたいと思います。あと言葉の中に条例の文言をちりばめています。もちろん条例の理念の部分の踏まえた形で書いています。

【委員】 イメージ図の中の学校には、保育園、幼稚園も当然含まれますね。

【議長】 3に書いてあるとおりですね。図の方には細かく書いてないですがおっしゃるとおりです。

【委員】 この図は行政側から見て書かれた図なのかなと。私がこのまちの文化を振興したいと思ったときに、どうゆうかかわり方をしていくのか考えたときに、コミュニティであったりとか、NPOであったりとか、色々な今の関係で、そういう意味だったらいいのですが、ちょっと昔の図なのかなと、そんな感じがしましてね。

【議長】 団体はコミュニティとかイメージしているのですが、その側面をきちんと書いた方がいいのではないかということですね。

【委員】 どこから見ているのか。

【委員】 今年度から行政の政策のあり方が様変わりします。だけどこれは見やすいです。このとおりだから。

【委員】 5に市（行政）となっていますから、行政の図だったら合ってるのかもしれないですけど、あえて書いて何が分かりやすいのかなと。図は分かりにくいから分かりやすくすると思うのですが。

【議長】 図も要らないのではないかと。

【委員】 いや、そういうわけでもないのですが。分かりやすくした方がいいと思うのですが、この切り口で本当にいいのかなと。謡曲「高砂」でも学校で教えます。婦人会にお願いします。自治会にお願いします。各企業でやってくださいと、ばらまき型でいくのか、この指とまれ方式で、みんなでやっていくのかというときに、市民も同じ枠に入ってますでしょ。すると図がこの切り口でいいのか。政策提言なども、みんな団体からきて、こういう切り口になってる気がするのですね。でも本当はそれは市民を代弁しているのかなという感じがありまして、ちょっとあえて意見として出させていただきました。

【議長】 いわゆる主体別な切り口でなければどのようなイメージがありますかね？

【委員】 でもこの図は見やすいです。

【議長】 行政から見たら分かりやすい図なのですが。

【委員】 私はこの図を見まして、1から4の企業まで同じ太さで、市（行政）として太く書いてもらっているのは、これは市民として心強いです。いろんな支援をしてもらえるのだなど。市（行政）の中で4つ書いてもらっていますが、その内2番、これが今まで高砂市があまり力を入れてこなかった、だから今後は力を入れますよ、ということで1から4があり、特に2番で「施策を推進するために必要な措置を講ずる」とあり、これは市民として大事にしていきたいなど、この図はいいなと思っています。

【議長】 ありがとうございます。先ほど私が申し上げたように、2番のところは必要な公共財を提供していくということのイメージですので、行政として、例えばはっきり申し上げたら公民館の整理ですとか、そういったものも含めてのことです。3番、4番は先ほど言ったように、みなさん方の活動をバックアップしていくという、いずれにしても環境づくりをしていくというのが行政の役割となっていますので。

【委員】 事細かく丁寧すぎます。

【委員】 「市民」を四角で囲むのではなくて、ベースに市民があって、それで学校は学校で、企業は企業で、団体だけなのかなというところなのですが。

【委員】 団体も学校も企業も全部市民という意味ですね。

【委員】 団体、学校、企業が意見を出しますが、意見を出せない市民にどうなのかというかわり方が今まで行政がされていたと思いますが、それがコミュニティとか認識されていない集まりに結構いろんな意見があって、インターネットとかいろんな物で情報として取れるわけですね。行政もそういうものをキャッチして、市政に反映させていく、という感じに持っていかないと、声なき声、意見はあるのだけでも届かない声があるのです。

【委員】 市民を分けているところですね。分かりました。団体も企業も学校も市民の中ですからね。市民を別個にしていること自体がおかしいですね。それはまた考えて。

【議長】 先に事務局の方から先ほど委員がおっしゃったところはどうですか。何かこの図を作ったときの。

【事務局】 まず市民というのは、市民一人ひとりと文章に入っていますが、一人ひとり個人的な活動をされている方ももちろん文化を支えている重要な役割を果たしているという意味を込めて市民という枠を別にあげています。もちろん委員のおっしゃるようにみんな市民にもなりますし、ただ一人ひとりで個人的な活動をされている方ももちろん一人ひとりが文化にかかわって、担って、発展させて、ということにかかわっているのだという思いで市民というくくりを表では表しています。

【議長】 文章の書き方をもっと変えていただいて、続きに各それぞれ市民が所属する団体においてとか書けばもう少し整理されるのかもしれない。

【委員】 おっしゃることが表でできるように考えたらいい。

【議長】 あとこの中で5番の市は、条例の話しか書いてないのですが、もう少し市民とか団体のような書き方をするというのはいかがでしょうか。行政の方は遠慮して市の方の役割は条例に書いてあることを、それは委員がおっしゃったように非常に大事なことで、これからの推進の基盤にはなるのですが、こういう書き方でよろしいでしょうか。何かもうちょっといい書き方があればぜひ。条例の話をつまえた上で、下の3行ですね、文化に関する情報提供などの公共的サービスを担う、これは行政の役割です。そして、行政内部の連携や調整に努めてみなさんが自発的な活動を可能ならしめる、支援するとともに、それぞれと協働して条件を整える。条件を整えるというのは分かりにくいかもしれませんが、英語ではイデオロギックという言い方をするのですが、そういうふうな意味です。要するに学校、団体、企業を含めた市民が中心的な役割を果たしていただいて、行政はあくまでも調整したり、バックアップしたりする。というのが図のイメージなのですが。このあたりいかがでしょうか。

【委員】 これまで文化連盟に所属して、団体として、要望なり、声を出さないと取り上げてもらえないのかなという認識でした。そしたら一人ひとりということは、私個人的に1人で団体に所属しないで窓口に行って、こうして欲しいと言ったときに取り合ってくれるのかなとは思いますが。それをしていると行政側も対応しきれないのかなと。実際問題どうなるのかなと。

【議長】 実際はどうなのですか。ここでは市民一人ひとりと書かれています、実際やはり組織化しないと動かないというのが通常ですか。

【委員】 動くか動かないかは分かりませんが、一人ひとりが言っても取り合っ

もらえない、最初からどう動いたらいいか分からないとか、団体に所属されてもどうしたらいいのか分からないという声は聞きます。

【議長】 委員は組織化されてきた経緯がありますよね。このあたりどういうふう  
にされましたか。

【委員】 今みなさんにお配りしている冊子ですが、それは我々がまちを案内する  
ときに資料がなかったので、なんとか人々に、高砂市内にはこういうものがある  
ということを見て欲しい、知って欲しい、そういう気持ちで作りました。それ  
を作ったからどうこうというのではなくて、5の市の4番、「顕著な成果を  
収めた者や文化振興に寄与した者の顕彰に努める」とありますが、顕彰する前  
にもっと何か市民にバックアップする仕事があるのではないかと。上の1番か  
ら3番にあるかもしれませんが、顕彰というのはおこがましいのではないかと。

【委員】 これは自費出版ですか。

【委員】 「夢のシロ」という市の助成金をいただいて作成しました。

【議長】 多分イメージとして私もこれは良くできてて、要するに市民の一人ひと  
りの活動とか団体のそれぞれの活動を行政がバックアップして、こういうこと  
を可能ならしめる。それが先ほどおっしゃったガイドに必要になってくる。そ  
れによって人が集まるようなものの支援になっていくと、そういうようなイメ  
ージをしていたので。それで委員にお願いしたかったのは、多分おそらく最初  
は全く1人とか2人とか少ない人数で始められて組織化していったと思うの  
ですけども、そこらへんが多分組織化して最終的にこういうイメージにもって  
いけるといって、こういうところが本来的にやっていけないといけないことで、  
これがなかなか、こういったことも本当は行政ができたらいんだけど、ど  
うでしょうかねえ。

【委員】 行政がこういうのを作ってくれたらいいのにといいながら、なかなかで  
きないものだから我々で作った。今言われましたように最初は少ない人数でや  
っていましたが、高齢者大学のクラブ活動としてやっているもので、毎年新し  
い人が入ってきます。そうした人に、やはりいろいろと高砂市内にはこういう  
ものがあると、それを覚えてPRしてもらおう。人々にも知らせたり、我々の後  
から入ってくる者に、そういったものを、ここにこういうものがあると、今ま  
で教育委員会の方に聞いても全部が1つになったものがなかった。インターネ  
ットで調べたりしていました。

【議長】 市民一人ひとりの動きをバックアップするというのはなかなか難しい。けどもこういう活動を市民が自主的にやっていけば、それはバックアップできますよ、というのがおそらく行政の立場だと。だから一人ひとりをお願いしますというだけでは多分市は動かない。けども市民たちが活動していく、これは支援していきますし、そうした中でこういうものを作っていくことに関しては行政もバックアップできると、そういう形になると思います。先ほど1人でいったらいいのですかというのではなくて、自分たちでこういうことをやります、こういうところを組織化していきます、だから行政と一緒にやりませんかという、こういうふうなもっていき方になればおそらく動いていくだろうと。そのときは多分個人ではなくて多分個人中心とした組織ができていくだろうと。それはおそらく委員がやられてきた経緯に近いのではないかと思ってお話を聞いたので、そういうイメージがひとつこの図の中にはありますね。

【委員】 先ほど文化連盟があつてとおっしゃったけど、最初に東と北播磨に東文連が作られて、それで各市町に文化連盟ができたのです。私はそのときにコーラスグループを作っていたので、それで文化連盟に入ったのです。だから、何も初めからできていたのとは違うのです。東文連が最初にできて、それで今で言う県民局単位の文化連盟ができたのです。初めからあったものではないですから。

【委員】 今市の補助という考え方があると思いますけども、10頁に書いてありますけど、創造性と自主性を持った市民一人ひとりと。ですから別に補助金をもらうのではなくて、それも大事ですよ、それぞれ一人ひとりの市民が文化的といたらおかしいですけど、そういう生活、普段の活動を一人ひとりができるような、そうすると総合的にその市は文化度が高い形になってくると思う、一方で市との援助とは別で。そういうふうな市民一人ひとりの生活の向上というかそっちの方にも話としては別に行くのではないかという気がしますね。この一人ひとりという意味ではね。

【議長】 組織化をする話、それから個人一人ひとり、組織化というだけではないよということをおっしゃりたかったと思います。先ほど申しあげましたように、市民一人ひとりという位置づけをどうするかという中で、私は組織化の話をした、それに応じていただいて過去の歴史としておっしゃっていただいた。また、組織化というだけではなくて、一人ひとりの中の文化の向上というのも本来はあるはずだろうと。そこをどういうふうに行政としてかわりますかというところがちょっと抜けているのではないかと、そこは確かに抜けていたのでそこはちょっと考えたいと思います。あと何かほかにご意見ありますでしょうか。

【委員】 確かな情報が分からないのですが、学校が文化会館を借りてコンサートをする場合に、今全額減免ですか？減免の割合が来年度から半減になるのですか。

【事務局】 今年度と来年度と変わるということは、今のところございません。

【委員】 学校が教育委員会の主催事業としてする場合は、全額減免できますけども、教育委員会がする場合も教育委員会が支払います。指定管理者はなかなか減免とかしらないです。

【委員】 実際問題活動ということに関すると、学校関係者から聞いた話では、活動がやりにくくなるのではないかと見えてしまう。現実どうなのだろう。本当に活動しやすくなるのだろうか。もちろん経費的なものがあるので、あちらこちらには渡せないでしょうけども。

【議長】 それぞれ役割が与えられているわりには、先ほど活動できるようなものといいいながら、実際には難しいのではないかとということですね。

【委員】 難しくなるような気がするのと、理想を求めていかないといけないのと両方あります。

【委員】 私も団体として活動していますが、文化会館が民間になったということで、今まで市役所が運営していたときとどう違うかということ、反面ものすごく使いやすくなった。商売ですからね。昔は申請でも、4月になると次の年だから決められないと言われていました。今はきちんと前もってある程度の期間を持って予約がとれるようになりましたし、こちらの要望も聞いてくれやすくなりました。ただ文化会館が事業をするため、借りる日が少なくなったという選択の面で少しアンバランスもありますけど。交渉する限りでは、指定管理者になったので大変良かった。使いやすくなりました。

【委員】 向こうは人を集めるのに苦労されています。

【議長】 それと第6章ですけど、第5章でありました市民一人ひとりの文化の向上というところ、しっかりやりたいと思います。団体と市民の関係、ここの記述ももう少し充実させていこうと思いますので。あくまでも市民の組織化のようなことも含めたイメージも一方で持ち、市民一人ひとりの文化、ユネスコではないですけど、文化力を高めていくことが重要だということも確認したいと思います。第6章で具体的な施策の部分に入っていくのですが、中身は具

体的な施策例で、現実に動かされている施策と、丸がついたのがこれから想定されるものです。見ていただきたいのが、こういうふうな中身でいいかどうか。それと基本施策1から6まで書いていますが、いくつか統合したほうがいいのではないかと、そのあたりのご意見をいただきたいのですが、いかがでしょうか。最終的におっしゃっていただいた基本施策の3と4の統合という意見が出ましたので、ほかにもご意見をいただければ。

【委員】 3と4は整理する必要があると思います。あと後半は丁寧すぎると思いますが、良く書いています。

【委員】 意見書を出してくださいということで、色々出させていただいているのですが、このあたりはどういうふうに考えられていますか？

【議長】 修正しているところと、していないところですか。

【委員】 そのあたりは見ているので結構ですが。意見を出していますよね。それはなぜ出しているかといえば、この場でできるだけ短くするために前もって意見を出しているわけですよね。そのあたりをどう取り上げていただけるのかなと思ひまして質問しています。

【議長】 事務局に確認しますが、いただいた意見はこれに反映していますね。

【事務局】 一応反映しているところは修正済と表しています。今回この場で議論にあげていただいたところできてないところで、この場でもう一度みなさまに審議していただいた方がいいかなというところは、もちろん済になっていないです。

【議長】 第6章でいくと、想定される担い手がこれでいいとか、細かい施策を書いていますが、だいたい網羅されているとか、最初に委員がおっしゃっていた基本施策を6項立てにしていますが、これで適切かどうか。

【委員】 意見書の中でも書かせていただきましたが、「第6章の基本施策・施策の方向〈具体的な施策例〉について、追加等がありましたらご記入ください」と書かれていましたので、一応この中に書かせていただいたのが、基本施策2【施策の方向2】で、今どきですから「インターネットによる発信」などあげていただきたい、ということを書かせていただいたことと、情報を集めるには「高砂版目安箱」のようなものを入れていただけたらということと、また「高砂の日」というかそういう日を、何かブライダルに関係する日に制定し、その



週とか月間を、ブライダルの週とかブライダル月間にできたらいいなあということで、「高砂の日」などを中に入れていただきたいということをここには書かせていただきました。

【事務局】 そういった箇所はまだ修正済になっていない箇所というのは、委員からいただいた意見の具体案、ほかの委員からも具体案としていただいておりますが、それはもっと先の実施計画の中で基本方針が定まってから、後に実施計画を立てていき予算化ということを考えないといけないのですが、その中で考えていけばいいのかなということで、今はご意見をいただいた状態で預らせていただくという考えで意見書を考えていただいたらいかがかなと思うのですが。

【委員】 そういう考えであれば、それで結構だと思います。

【議長】 ですから委員がおっしゃったのは、具体的だからここに入っていないということですか。

【事務局】 基本方針の中に盛り込めてないのは、実施計画、もっと具体案として、アクションプランとして、そちらの方で盛り込んでいけたらいいかなということで、今回の基本方針の中では入れていません。ただ、どうしても謡曲「高砂」のように、この言葉をいれないと方針としては分かりにくい、というようなことがあるのであれば中に入れていただいたらいいのではないかなと思うのですが。読ませていただいたら、実施計画で、実際これをするためにこういうイベントをしたらいいとか、こういう催しをしたらいいとかというところの話なのかなということで今のところは反映させていません。

【委員】 いいのですが、意見書の中で意見を言ったことに対してこの会で、会長のほうから何かこういうのを取り上げた発言がしていただけるかなと思っていました。

【議長】 いただいた意見をここに反映させてくださいとお願いしております、先ほど言ったようにどのレベルかというのが、私も施策レベルなのか、実施計画レベルなのか。それで例えばここにインターネットを活用というのは、実は例えば14ページの【施策方向の2】〈具体的な施策例〉の「各団体ホームページの運営、充実」にかかわるのでしょうか、むしろこちらの方が具体的なのですね。例えばインターネットを活用して新しい情報を発信するとかのほうが、もしかしたら方針にはふさわしいのかもしれない。

【委員】 私も意味がわからなかったのですが、今日の説明で丸が付いていないところは既に実施されている内容を載せているということですね。だから今、具体的にやっているということが、わかりました。私は、具体的な例として挙げているということは、〈具体的な施策例〉に「高砂の日を制定する」などを例として挙げていただいてもいいのかなということを書かせていただきましたが、そうではないということなので、今後の参考ということ結構です。

【議長】 例えばこういう例などはまだ実施していないことであれば、むしろまとめた方がいいのではないかと、その方が分かりやすいのではないかと。そうすると、委員がおっしゃった目安箱などは、今後考えられる施策の例として出せるのではないかと、こういうご意見もあるので、それをまとめていけば入っているとしたいと思います。

【委員】 今現在行っている施策と今後の施策を分けたほうがいいのではないかと、思いますね。これから行うことは、これを取り入れてやりますと、別記して入れた方が分かりやすいのではないかと私は思います。

【議長】 そういう形で、現在の施策としての例、それから今後考えられる施策例としたら、委員がおっしゃったような目安箱なども、想定される今後取り組んだ方がよい施策の中に入れていく。そうするとイベント等の情報収集なども含めた形になってくると、思います。他に何か？

【委員】 丁寧すぎて結局施策にかかわっていない者には分からない。だからもう少し見て分かりやすいように、簡潔にしたほうがいいのではないかと、思います。

【議長】 ありがとうございます。あと何かほかにご意見ありますか。

【委員】 確かに丁寧にさせていただいて、意見書にも書かせていただきましたが、1項目を実行するだけでも結構大変なことだと思います。簡単にするにはそれもいいと思いますし、このままの形でいくのであれば、私は基本施策の3と4は、別でいいと思います。やはり大人を対象としたもの、子どもも市民ですけど、学校と少し違うと思うので、それは基本施策3と4は別でいいと思います。

【議長】 社会教育と学校教育ということですね。

【委員】 第6章のこの表に〈具体的な施策例〉とありますが、この施策の意味がよくわからなかったのですが、今聞いた話で実施例というふうに読み替えた方

がいいのでしょうか。丸印はまだ実施していないとか、そういう意味ですか？

【議長】 行政の場合、事業、計画、施策とか色々区分されていますね。少し説明をお願いします。

【事務局】 そうですね、私も作っている中で、丸印のついているものは割と具体的な書き方をしています。これはむしろ実施計画というか、実施の部分にかかわってくる。それは今後することなので、より具体的に書かないと丸のついていない部分のような、まとめたような書き方にすると、何をするのか全然分からない、というところで、より具体的な実施の方になっていると思います。それ以外のところも多少細かく書いているところもありますが、施策というよりも、もう少し大きいレベルのことを書いているつもりです。実際これを作るにあたって、事前に各担当課でどういう文化にかかわることをしていますかという調査をしました。その出てきたものに対して、この6つの分類に分かれるように全部入れ込みました。入れ込んでみてまとめられるもの、これは同じ系統でできるという言葉をもとめたものを、施策として1つずつ項目にあげました。繰り返しますが、今後実施しようとするところは、そういう言葉で表すと全く何をするか分からない、見えてこない、ということで具体的に、例えば一番最初の「謡曲教室の開催」などとても実施に近いことを書かせていただいています。ですから今話していただきたいというのは、この施策のこの書き方の問題も含めてなのですが、書きにくかったのです。今後のところを入れ込まないと、今までやっていることを書くだけでしたら、基本方針ではないかなと思い、やはり今後やっていこうとするところが多少見えないと、方針とは言えないのかなというところで、どうしても丸印の部分をいくつか入れたかったのです。そういう思いもあって、言葉が大きな施策という部分でまとめているものと、実施計画の部分でもっと具体的な表現が入り混じったような表になっているので、余計分かりにくいのではないかとは思っています。

【委員】 だから今後新たにやる分については、やはり新たにやりますという表示をしていたらよかった。これからの施策について、新しいことをするなら、新たに「新」と言う形で表現したら分かりやすいわけですね。別に新しく今後こういうふうな施策をしますと別書きにしたらよく分かりやすいですね。だから丁寧すぎるというのは、今までのものはもう少し整理をして、今後行おうとする新しい施策については別記されたら分かりやすいのではと思います。

【議長】 ほかにどうぞ。

【委員】 それとですね、最後に米印がついていて「※施策番号の前に○があるも

のは実施予定、検討中の施策例です。」とありますね。私ももう少し読み込むと分かったことなのですが、丸がないものはこれからもっともっと深めていくのかなど。予定は本当にやるのだなと、やろうとしているのだなというものが丸で、例えば丸がないのは、「地域ブランド商品の開発、促進」などは、実施しているということで書かれていると言われましたが、この文章だけを見ると、これからまだ未定だけど、というような感じにとられたのですけれども、いかがでしょうか。

**【事務局】** 今やっていることですので、それを今同じように継続していくのか、さらにもっと充実させていくのか、そういう意味を含めてのところが書いてあります。

**【議長】** あくまでご意見いただいている以外にですね、こういうものも加えたらどうかというものがあれば、ぜひとも。キーワードでも結構です。

**【委員】** 加えるというより、12ページの基本施策1【施策の方向3】で、「地域の宝の発掘」という、この「宝」とはどういうものを言われているのですか。あまり抽象的すぎて分からないので。「地域のお宝」とかいう言葉はよく聞きますけど、具体的に何をいうのか。

**【事務局】** これは高砂の宝というか、誇れるものというもので、簡単にいうと文化資源であったり、人であったり、そういったものすべてを含んで「地域の宝」と表現しています。

**【委員】** それなら「地域の文化資源」とした方がいいのではないのでしょうか。

**【議長】** 「地域の宝」というのは、定義というか、そういう運動が10数年前からあって、「地域の宝」という言葉自身はあるのです。ある程度認識されていると思います。分かりにくいというのであれば説明はあるかもしれないです。言葉としてはあるのです。例えば観光学とかの分野ではある程度認識はされている言葉ではあります。

**【委員】** まちを歩いて目についたものを写真にとって、それをお宝として地図にプロットすると、そういうことを実際には行っています。だいたいのは分かれますけど、ここでは具体的に文化資源とか、人物だったら人物は別に載っているから、そういったことに具体的に書いた方が分かりやすいのではないかなとふと思ったものですから。そういう定義があることは知らなかったのです。

【議長】 委員がおっしゃっていた基本施策3と4で、委員からは、4はいわば学校教育の場で、3が社会教育の場というふうに言われ、文化を担うのは人材だとおっしゃったように、子どもも含めてだろう。だから3と4は学校と社会教育の場でのようなことを、強調した形にして並列させるというのはいかがでしょうか。

【委員】 いや、教育はひとつでいいですよ。社会教育や学校教育に分ける必要はないと思う。生まれたときから教育ですから。

【議長】 生涯学習というのはまさにそうですね。

【委員】 生まれたときは家庭教育で、次は学校教育で。学校教育であれ社会教育であれ教育はひとつだと私は思います。

【議長】 生涯学習の観点から一緒がいいのではないかとということですが、いいですかそういう形で。生涯学習社会という今これから目指す国家社会の中で、将来的には一体であるということ。

【委員】 基本施策4の場合の場は学校ですか？

【事務局】 学校だけには限らないと思います。

【委員】 生徒が動くのですよね。生徒はどこか施設へ行ったりして子どもが動くのですね。大きくは学校が場の中心になるのではないですか。子ども達が外へ行くとなると、大変な時間的なロスとかありますし。

【事務局】 学校とか保育園、幼稚園という活動の場だけではなくて、地域ということもありますし、例えば子ども会のような。ですから子どもの活動の場というのは、学校のような組織の中だけではないと考えますが。

【委員】 子どもというのは高校生も含んでいますか。

【事務局】 そうですね。

【委員】 学校だけではないというのが前提ですか。

【事務局】 学校だけではないと思います。

【委員】 私は、教育は一貫して生まれてから死ぬまで一緒だと思います。

【議長】 委員がおっしゃるのは生涯学習の根本的な考え方で、今そちらの方向になりつつある。

【委員】 これは文化振興基本方針でしょ。基本方針ということは人間が生まれてから死ぬまでのことでしょ。生まれてから死ぬまでの教育でしょ。

【委員】 そうであれば子どもを対象にしたこれは要らないのでは。子どもとして分ける必要はないのではないですか。

【議長】 ではそこは一体で考えて、生涯学習という観点からですね。

【委員】 こういうことをやっているということ言えば。

【委員】 あえてそれを書くと、社会教育の方が薄れてくるわけです。

【委員】 基本施策の3と4ですね、中を見ましたら、3は「文化を担う人材の育成、活用」で確かに担う人材であるのは間違いないのですが、リーダー的な役割が必要だということ、どちらかと言うと人材は人材ですけど、教えるではないけど、ガイドクラブのような方がたくさん増えたらいいのかなというのが3の具体例で、幼稚園などはガイドクラブに教えてもらう機会が増えたらということにとられたら、どちらかと言うと上からと下からというか、そういう感じのイメージがあるので、私は分けた方がいいかなと、そういう意味のね。もちろん子どもというのは人材です。

【委員】 基本施策の4を入れたら、いかにも高砂が、学校教育が遅れているというか、熱心でなかったような印象を受けるのです。だから基本施策3に人材の育成と書いてあるので、あえて子どもの学習機会の充実をあげる必要はないと思うのですね。3がなければ必要ですけど、3に人材の育成があるからね。

【委員】 一緒にするのはいいですよ。それだったら基本施策3が人材の育成ではなくて、もっと違う大きな言葉になるのでしょうかね。育成とか、学習機会ではなくてね。そうであれば別にこだわりませんが。一体とするのであれば。

【議長】 では一体で考えて、中身のタイトルを変えるということで。それは統一しましょう。おっしゃったようなリーダーを育成するだけではなくて、もちろん受け手である方も一体だと。その方向で。あと何かこういったこと含めてい

かがでしょうか。

【委員】 意見書の中の最後の方に書いていますが、「第6章の基本施策1【施策の方向3】の「地域の宝」とは、現在の人や隠れた（まだ知られていない）遺産も含まれると理解してよろしいでしょうか。」と書かせていただきましたがよろしいでしょうか。それと「基本施策2の文中2行目「舞台」というのは舞台（場）も含めた「舞台づくり」の方がじっくりいくように思いますがいかがでしょうか」と書かせてもらったのですが。

【議長】 それはご意見どおりではないでしょうか。意味は通ると思います。「づくり」という言葉を入れていますので、おっしゃったとおりでいいと思います。先の「地域の宝」のところは詳細に書くということで。あと何かよろしいでしょうか。だいたいご意見いただいたということで、今日皆様に事前に配ってないものですから、あらためてご確認いただいております。お気づきの点がございましたら、ご指摘いただきたいと思います。先ほど今日いただいたご意見、1点目は第1章のところでごございました目指す姿、これについては少し文言を入れ替えてですね、皆様にご提示するということが1点。それから第4章につきましては、基本目標につきましては「づくり」という言葉を入れていく。それから第5章につきましては、市民のところをもう少しちょっと書き換えまして、市民がいれば団体だったり、学校だったり、どうかかわりを持っているのかを詳細に書いていく、あるいは市民一人ひとりが文化を向上させていくというこういうイメージをもう少し書き加えていく。それにあわせて図の方も整理したいと思います。あと第6章につきましては基本施策3、4についてはひとつにして、「文化を担う人材の育成、活用」という言葉でなくて、言葉を少し変えて、リーダー、それからその継承者というところを含めて書いていく。それにあわせて戻りますが、6ページの課題も書き換えがおきるとは思いますけども、これにあわせた形で書き換えます。あと何か？

【委員】 お任せします。できるだけ簡潔にさせていただいたら。分かりやすくなるように。

【委員】 言われたように、目指す姿も提示という言葉が使われましたけど、決定して報告しないでもいいと思いますけど。

【議長】 あと何かよろしいでしょうか。

【委員】 お任せします。

【議長】 もう1件スケジュールの方を見ていただきたいのですが、事務局の方で説明をお願いします。

【事務局】 資料2で文化振興基本方針策定スケジュール（案）をご覧ください。審議会の今後の予定でございますが、本日いただいた意見を基に修正をいたしまして、6月にはパブリックコメントをしたいと思います。そのあとパブリックコメントをいただいた意見を参考に7月に再度ご検討をいただいて、8月に答申に向けて最終確認をお願いする予定にしています。答申後は市の方で来年度実施できるものを含めまして、今後の実施計画を策定していきたいと思えます。1月には委員の皆様へ実施計画についての報告をしたいと思います。実施計画策定にあたりましては、意見をまたご提案していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。年間スケジュールについては以上でございますが、次回の第5回の審議会につきましては7月の中旬ということで、7月19日木曜日、3時から、場所が南庁舎5階大会議室で開催したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【議長】 以上でございます。どうもありがとうございました。

#### 4. 閉 会

【司会】 これにて散会いたします。ありがとうございました。